



秋桜の咲く日

—— コスモス ——

制作のねらい

「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。

違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。

この映画は、「目に見えにくい違い」の一つとして発達障害をとりあげています。

発達障害のある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材として制作いたしました。

学習の ポイント

- 変わっている人は、困った人？
- 「人の気持ちがわかる」って？
- もし「困った人」があなたの身近にいたら
- 「普通」ってどういうこと？
- 違いを認め合い、活かしあう社会へ

■企画：北九州市 北九州市教育委員会
北九州市人権問題啓発推進協議会

■制作：東映株式会社

■プロデューサー：中鉢裕幸

■監督：高橋浩

■脚本：山上梨香

【上映時間34分】

DVD 70,000円(税抜)[C#6466]

※字幕・副音声付き

VHS 70,000円(税抜)[C#6467]

※字幕・副音声版もあります。[C#6468]

大切なことは目には見えない

北九州市人権啓発映画制作に関する検討会議委員長 中島 俊介
(北九州市立大学 地域創生学群教授)

「声なき声、姿なき姿を求めよ。人権は見えず、聴こえず」私の大切にしていることばです。この映画では「目に見えにくい障害」が描かれています。難病や内部疾患、発達障害などは一見してわからない。主人公の直也は先天性の発達障害の一種・アスペルガー症候群。常識的な会話のやり取りが困難です。「君は子どもか」と注意されたのに「いえ、25歳です。子どもではありません」と答えてしまいます。当然想像できるはずの会話の文脈がわからないのは、コミュニケーション力や想像力の欠如があるためです。そんな直也は「変わった人」と言われ、普通の人と「ちがう」とされてしまいます。この「ちがう」を辞書でひくと、「異なる」に加え、英語にはない「間違う」の意味もあります。日本では個人より全体を重んじてきた結果、ちがうものを「正しくない」と排除する風土が形成されてきたとはいえないでしょうか。

21世紀のキーワードの一つに「多様性」=ダイバーシティが挙げられます。ダイバーシティとは、企業や組織で使われている積極的多様性のことで、一人ひとりが持つ違いや共通点を認め合い、それを活かすことで組織が活性化するという考え方です。映画の中での小柳ホーム長の言葉「人間もジグソーパズルみたいですね。同じように見えても、一人ひとり違う。違うからこそ、組み合わせると面白い」「異なるものは間違いであるから排除する」のではなく、「異なるものと共生すると幸せになる」つまり「存在をありのままに認め合う文化」を推進したいものです。目に見えにくい障害の一つである聴覚障害の妻と歩んできた乾は直也のハンディーをいち早く見抜きます。映画を観終えた私は、サン＝テグジュペリの名作『星の王子さま』の「大切なことは目には見えない」ということばを思い出しました。この映画で示された「目に見えにくい障害」を前にして、問われているのは私たち自身の人権をはじめとする大切なものへの「想像力の欠如」ではないでしょうか。



秋桜の咲く日 あらすじ

特別養護老人ホーム「向陽園」の主任介護士として働く大谷ちひろは、新しく入った介護士中嶋直也に期待するが、直也は空気の読めない発言をしたり、指示が伝わらなかったり、コミュニケーションが取りづらい。ちひろはストレスを感じながらも、直也を育てるべく奮闘する。

そんな中、直也が入居者の元大学教授、乾一成を連れて外出したところ、金山川で乾が倒れて意識不明になってしまう。知らせを受けて病院に駆けつけたちひろは、パニックを起こした直也に、介護士失格だと激しく叱責する。

翌日から直也は欠勤。直也の母が退職願を持って「向陽園」を訪れ、直也がアスペルガー症候群であることを告白する。いったん退職願を受理したものの、ちひろは直也をこのまま辞めさせていいものか悩む。そしてちひろは、直也が乾を金山川へ連れていった理由を聞くため、入院中の乾を訪ねたのであった……。



発達障害について

発達障害とは、一般的に乳児期から幼児期にかけて、様々な原因で発達の遅れなどの障害がみられるものを言います。本人の怠慢や家族のしつけ、環境などが原因ではなく、基本的に脳の機能障害から起こります。発達障害者支援法(2005年施行)では「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの……」と定義されています。

直也の障害である「アスペルガー症候群」は、発達障害の中に属し、幼児期に言語発達の遅れはないが、「表情や身振り、声の抑揚、姿勢などが独特」、「親しい友人関係を築けない」、「慣習的な暗黙のルールが分からない」、「会話で、冗談や比喩、皮肉が分からない」などのような特徴があります。

発達障害の症状の出方には個人差があります。本人、家族も含めて、周囲の人々の正しい理解が必要です。

「厚生労働省e-ヘルスネット」から一部引用